

『産婦人科内視鏡手術ガイドライン 2013年版』に関するお知らせ

(2013年9月5日発行 第1刷をご購入いただきました皆さまへ)

本書発刊後、2014年4月1日より腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）が保険収載されました。これに伴う本書の訂正点について、下記の通りお知らせ致します。

記

① 127 ページ 悪性腫瘍編 ■ 序論「腹腔鏡下婦人科悪性腫瘍手術の基本的指針」内

腹腔鏡下婦人科悪性腫瘍手術の基本的指針

- 1) ~~産婦人科悪性腫瘍領域における内視鏡下手術は未だ保険収載されていない。~~
- 2) ~~本ガイドラインは、主に国外の代表的臨床研究や臨床試験の結果に基づき、産婦人科悪性腫瘍領域における腹腔鏡下手術の適応に関する。すなわち、~~
- 1) 産婦人科悪性腫瘍領域における内視鏡下手術は、2014年4月にIA期（日産婦2011手術進行期分類）の子宮体がんに対する骨盤リンパ節郭清までの腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術が保険収載されたが、その他の婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術は未だに保険収載されていない。
- を目的としたものであり、わが国の臨床の現状にてのまよ当てはまるわけではない。

② 129 ページ 11 行目 第1章 ■ 子宮頸がん「総説」内

~~産婦人科悪性腫瘍領域における腹腔鏡下手術は2013年4月時点で未だ保険収載されていない。子宮頸がんにおいても、主に国外の代表的臨床研究や臨床試験の結果に基づき術式・適応に関する内容がそのまま~~

産婦人科悪性腫瘍領域における腹腔鏡下手術は、2014年4月にIA期（日産婦2011手術進行期分類）の子宮体がんに対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術のみが保険収載された。

③ 140 ページ 9 行目・19 行目 第2章 ■ 子宮体がん「総説」内

~~ないものの、つい最近、米国GOGによる大規模RCTの結果が報告された。わが国においては、腹腔鏡下子宮体がん根治手術が2008年8月に先進医療として承認され、27施設で実施されており（2013年7月31日現在）、一定の条件を満たした施設・術者によって行われる腹腔鏡下手術は今後も増加していくものと思われ、将来的には保険診療として承認される可能性が高い。~~

子宮体がんにおける腹腔鏡下手術については「創部縮小化による整容性向上、拡大視野による詳細な腹腔内の観察、精密な手術操作およびそれに伴う出血量・輸血率の減少、入院期間の短縮」であり、同様に短所については、「術者・施行可能施設の制限、手術時間の延長」に集約される。

わが国においては、腹腔鏡下子宮体がん根治手術が2008年8月に先進医療として承認された後、2014年4月より保険収載されたことから、今後も増加、普及していくものと思われる。

~~産婦人科悪性腫瘍領域における腹腔鏡下手術は、2013年4月時点で未だ保険収載されていないものはない。子宮体がんに対する腹腔鏡下手術については、主に国外の代表的臨床研究や臨床試験の結果に基づき術式・適応に関する内容がそのまま~~

産婦人科悪性腫瘍領域において、「子宮体癌取扱い規約」におけるIA期（日産婦2011手術進行期分類）の子宮体がんに対する骨盤リンパ節郭清までの腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術が2014年4月に保険収載された。

④ 143 ページ CQ32「臨床的早期(I期)子宮体がんに対して腹腔鏡下手術は有用か？」に追記

CQ 32

付記:「子宮体癌取扱い規約」におけるIA期(日産婦2011手術進行期分類)の子宮体がんに対する骨盤リンパ節郭清までの腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術が2014年4月に保険収載された。しかし現時点では、傍大動脈リンパ節郭清を実施した場合には保険適用とならない。また、実施においては、同手術を施行するための施設基準を満たすことが規定されている。

臨床的早期 (I期) 子宮体がんに対して腹腔鏡下手術は有用か？

⑤ 147 ページ 30 行目 (下から 2 行目) 第 3 章 ■ 卵巣がん「総説」内

~~産婦人科悪性腫瘍領域における腹腔鏡下手術は2013年4月時点で未だ保険収載されていない。卵巣がんにおいても、主に国外~~

の代表的臨床研究や臨床試験の結果に基づき、
婦人科悪性腫瘍領域における腹腔鏡下手術は、
2014年4月にIA期(日産婦2011手術進行期分類)の
子宮体がんに対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
のみが保険収載された。

2014年12月

一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会

金原出版株式会社

以上